

慶應義塾大学とカネボウ化粧品の共同プロジェクトにより “いきいきと美しく生きる”ためのパターン・ランゲージを制作

慶應義塾大学 SFC 研究所
株式会社カネボウ化粧品



慶應義塾大学 SFC 研究所 井庭崇研究室とカネボウ化粧品 価値創成研究所は、共同プロジェクトとして、女性が「いきいきと美しく生きる」ためのパターン・ランゲージ「Generative Beauty Patterns」を制作しました。これは、経験知を言語化・体系化したもので、あらゆる女性が「いきいきと美しく生きる」ことを促すための、まったく新しいタイプの支援ツールです。

プロジェクトチームは、11月22日・23日に六本木ミッドタウンで開催される「慶應義塾大学 SFC オープン・リサーチ・フォーラム」でこのパターン・ランゲージを収録した冊子を配布するとともに、今後、パターン・ランゲージを用いたコミュニティの活性化に取り組みます。カネボウ化粧品は、本プロジェクトを通じ、より多くの女性が美に対する発想を広げ、自分らしく「いきいきと美しく生きる」ことを支援していきます。

「パターン・ランゲージ」とは

「パターン・ランゲージ」とは、もともとは建築の分野で建築家クリストファー・アレグザンダー氏が提唱した知識記述の形式です。アレグザンダー氏は、建物や町の形態に繰り返し現れる法則性とそこに住む人々との関係を徹底的に調査し、建物と人々の「いきいきとした」関係には、253の「パターン」(法則)があることを突き止めました。そして、それらのパターンを、背景(Context)における問題(Problem)と解決の方法(Solution)として記述し、「ランゲージ」(言語)として体系化しました。それが、もともと「パターン・ランゲージ」と呼ばれていたものです。アレグザンダー氏は、パターン・ランゲージにおける諸パターンを組み合わせることによって、「いきいきとした質感をもつ建物や町」をつくることを支援したのです^{1, 2)}。

慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス(SFC) 総合政策学部の井庭崇准教授は、このパターン・ランゲージの記述形式を、創造的な人間活動の支援のために応用し、この分野の第一人者として先導的な立場で研究を進めています。これまでに『創造的な学び』『創造的プレゼンテーション』『創造的コラボレーション』といったパターン・ランゲージを制作。「いきいきとした」人間活動を支援し、これらの成果は、世界の専門家の間でも大変注目されています。さらに、パターン・ランゲージを用いた対話のワークショップを開催するなど、コミュニケーションを活性化するという方面でも新しい道を切り拓いています³⁾。

参考1) 『パタン・ランゲージ：環境設計の手引』(C・アレグザンダー, 鹿島出版会 1984)

2) 『時を超えた建設の道』(C・アレグザンダー, 鹿島出版会, 1993)

3) <http://web.sfc.keio.ac.jp/iba/>

「いきいきと美しく生きる」パターン・ランゲージを制作

カネボウ化粧品は、「FEEL YOUR BEAUTY」というビジョンを掲げ、一人ひとりのお客さま本来の美と個性を引き出し、その輝きをお客さまご自身に感じていただくことを目指しています。このビジョンを体現する一つの方法として、女性が「いきいきと美しく生きる」ためのパターン・ランゲージの可能性に着目。2011年、井庭崇准教授と共同でプロジェクト Generative

Beauty Project を開始し、「Generative Beauty Patterns」(ジェネレイティブ・ビューティ・パターン)を制作しました。この新しいツールを活用することにより、女性が生成的に「いきいきと美しく生きる」ことを応援していきます。

「いきいきと美しく生きる」パターン・ランゲージの制作プロセス

制作にあたって、本プロジェクトでは、女性が「いきいきと美しく生きる」とはどのようなことなのかについて、多角的にブレインストーミングを行いました。「いきいきと美しく生きる」ことの本質は、単に外見的なことだけではありません。そこで、井庭崇研究室の女性メンバー一人ひとりの「美しく輝いた経験」「自分の理想の人」「自分の“いきいきと美しく”を支えるアイテム」「ファッション」「髪型」等、外見・内面それぞれに関わる約 300 の意見をまとめ、パターンの言語化に取り組みました。

パターン・ランゲージは、多くの人々が理解(共有化)でき、そこから発想や発見を得られるような言葉で書かれている必要があります。一人の経験や知識ではなく、一般の人々によって共有化される原理(パターン)を抽出し、それらを体系化して記述・修正したため、作業に長い時間を費やしました。冊子に収録されている文章は、とてもシンプルで短いものですが、細心の注意を払いながら洗練させた結果です。さらに、より「いきいきと美しく生きる」ことの「質感」を表現するために、メンバーが自ら写真を撮り、ビジュアル・デザインも担当しました。

「いきいきと美しく生きる」パターン・ランゲージ詳細

『Generative Beauty Patterns』は、48個のパターンで構成されています。パターンは9つのグループに分類され、さらに3つのカテゴリーにまとめられています。

	01-13	Flower
	14-20	Bamboo
	21-23	Ground
	24-30	Rainbow
	31-36	Water
	37-39	Sea
	40-42	Star
	43-45	Moon
	46-48	Sun

「花」「竹」「土」グループ

女性らしい美しさを育むためのパターンで、華やかさに関する「花」グループ、芯の強さに関する「竹」グループ、しっかりとした基礎に関する「土」グループで構成されています。

「虹」「水」「海」グループ

いきいきとした気持ちやパワーを生み出すためのパターンで、日々の彩りに関する「虹」グループ、軽やかさに関する「水」グループ、パワーの源に関する「海」グループで構成されています。

「星」「月」「陽」グループ

より豊かで深みがある人生を実現するためのパターンで、未来への輝きに関する「星」グループ、秘められた魅力に関する「月」グループ、あたたかな優しさに関する「陽」グループで構成されています。

一つひとつのパターンには、パターン名、Context(状況)、Problem(よくある問題)、Solution(解決のヒント)と他のパターンとの関連性が書かれています。例えば、「軽やかさ」を象徴する「水」のグループ(No.31-36)のうち、No.36「いろんな自分らしさ」というパターンでは、「自分のある一面だけが強調されて、定着してしまっている」というContext(状況)に対し、「それに当てはまらない印象を与えるようなことができなくなり、気持ちに無理が生じてしまう」というProblem(よくある問題)が生じます。この問題のSolution(解決のヒント)は、「周りのイメージにとらわれず、自分の持っているいろんな面を出し



ていく」です。さらにこのパターンは、No.11「イメチェン～新鮮な自分を楽しむ」、No.13「素颜メイク～飾ることだけが美しさではない」のパターンと連動していきます。



冊子に収録されているパターンには、「いきいきと美しく生きる」ことについて考えること(生成)を支援するヒントが書かれています。つまり、「いきいきと美しく生きる」ための直接的な具体的な「答え」ではなく、読む人ごとにその人らしさを踏まえながら、自分なりの「いきいきと美しく生きる」具体的なやり方を考えることを支援するのです。

このパターン・ランゲージを活用することにより、女性一人ひとりが「いきいきと美しく生きる」ために大切だけれど日頃忘れがちなことを思い出したり、自分にはなかった発想を得たりする機会を創出できると考えます。また、「いきいきと美しく生きる」ことについて、女性同士の会話(コミュニケーション)の活性化にも役立つはずです。

Generative Beauty Project の今後

本プロジェクトは、この『Generative Beauty Patterns』が「いきいきと美しく生きる」という質感の共有によって、さまざまな女性たちをつなげる新しいメディアとなることを目指しています。今後は、新しいタイプのワークショップやSNSの構築も視野にいれ、コミュニケーションの支援を行うことにより、創造的・持続的に「いきいきと美しく生きる」女性を支援する活動を続けていきます。

この研究に関連した成果は、10月19日～21日にアメリカ合衆国アリゾナで開催されたパターン・ランゲージ国際カンファレンス2012: Conference on Pattern Languages of Programs, 2012で発表し、国際的にも注目されました。

国内では、11月22日(木)・23日(金・祝)に六本木ミッドタウンで開催される慶應義塾大学SFCオープン・リサーチ・フォーラム(略称ORF, <http://orf.sfc.keio.ac.jp/>)で紹介し、完成冊子を配布します。同時に、Webサイトを開設(<http://www.generativebeauty.jp>)し、公開していく予定です。

この資料、および、Generative Beauty Patternsの内容に関するお問い合わせは下記までお願いします。

Generative Beauty Project (beauty@sfc.keio.ac.jp)

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学 井庭崇研究室